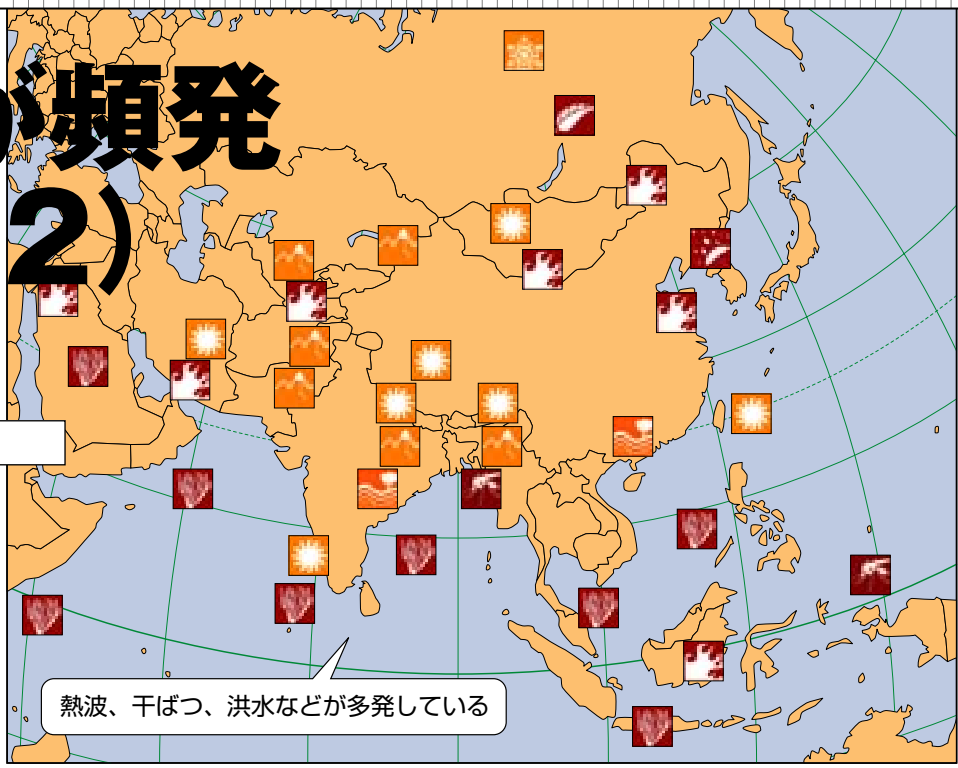
異常気象が頻発している（2）

近年、異常気象が多発している

アジアでは、近年、熱波、干ばつ、洪水など、温暖化の影響と考えられる異常気象が多発し、人々の暮らしや生活基盤に大きな被害が生じています。このような異常気象は、中国やインドなどの急激な人口増加・経済発展による環境負荷と合わさって、自然環境を破壊したり、食料生産の減少など、深刻な被害をまねくおそれがあります。

温暖化が進むことによって、台風の規模や強さが変わり、エルニーニョの起こり方も変わるといわれています。特に、エルニーニョは猛暑や冷夏、洪水、干ばつなど、世界中に異常気象をもたらし、大きな被害を及ぼすことが多い、重大な現象です。



証拠

- 熱波
- 氷の融解
- 海洋の温暖化、海面上昇及び沿岸の洪水
- 極地の温暖化

前兆

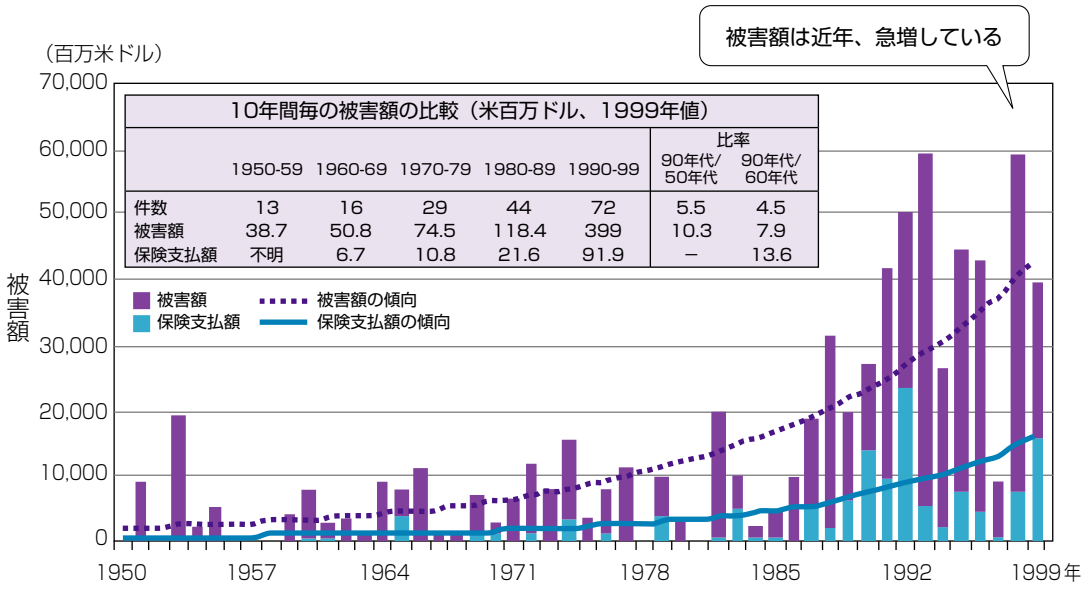
- 感染症などの拡大
- 豪雨、豪雪及び洪水
- 春の到来の早期化
- 干ばつ及び火災
- サンゴ礁の白化

（1970年代以降2001年までに発生した異常気象）

■ アジアにおける異常気象の発生状況（文献8より作成）

大きな被害を出す異常気象

温暖化と異常気象との関係はまだ十分にはわかっていません。しかし、温暖化によって異常気象が増えると、多くの人命や財産が失われ、また、このような損失をカバーするための保険金が多く支払われることになります。1980年以降、異常気象による被害額は急激に増えており、保険支払額も同様に増えています。



10年間毎の被害額の比較（米百万ドル、1999年値）

	1950-59	1960-69	1970-79	1980-89	1990-99	比率 90年代/50年代	比率 90年代/60年代
件数	13	16	29	44	72	5.5	4.5
被害額	38.7	50.8	74.5	118.4	399	10.3	7.9
保険支払額	不明	6.7	10.8	21.6	91.9	–	13.6

■ 異常気象による被害額と保険支払額の推移（文献9より）